

公開質問状

2013年5月23日

〒540-0004
大阪府大阪府中央区玉造 2-24-22
カトリック大阪大司教区
池 長 潤 大司教 様

〒***-****
※※※※※※※※※※※※※※※※ (註 1)
[教会の政治的言動を憂慮する会]
“会員有志”

TEL. **-****-****
FAX. **-****-**** (註 2)

植田真弘(大船教会)
牛島孝彦(清瀬教会)
大田英夫(岡山教会)
河野定男(夙川教会)
澁木嘉孝(大船教会)
志村一郎(由比ヶ浜教会)
土井修也(金剛教会)
野村勝美(山手教会)
原田重光(草加教会)
山内智恵子(鷺沼教会)
(他 4 名)(註 3)

(註 1,2) 本書には当然記載しています。
(註 3) 本書には氏名・所属教会を明記してあります。

「読売新聞 2013年2月21日付記事」並びに「カトリック新聞オンライン 2013年4月11日記事」についての公開質問状

急白

私どもは、全員カトリック教会に所属している信徒です。

読売新聞大阪版、本年2月21日夕刊に、「池長潤・大阪大司教に聞く」という記事があります。

その中で大司教様が、

「昨夏、37年に中国で日本軍のため殉教したシュラーベン司教の記念式典に招待する手紙が司教の母国オランダから寄せられると、軍の蛮行を謝罪し故人をたたえる返書を送った。」

とあります。そして、

「手紙によると、(シュラーベン)司教は、女子修道院に逃げ込んだ中国人女性の中から200人を慰安婦として差し出すよう求められたのを拒み、焼き殺されたという。」

「たとえ不名誉なことでも事実は率直に認める。」

と語っておられます。

又、先月(4月)11日にアップされた「カトリック新聞オンライン」においては、

「第2次世界大戦中に中国で旧日本軍に殺されたとされる司教ら9人の列福運動がオランダで進んでいる。」

「日本からも深水正勝神父(東京教区)が参列した。深水神父はミサ中、日本カトリック司教協議会会長の池長潤大司教の書簡を代読。日本による事件への謝罪の意を示し、列福運動のために祈ることを伝えた。」

と報ぜられています。

以上の報道に基づいて、以下の質問を致します。

1. 昨夏オランダへ送られた「軍の蛮行を謝罪し故人をたたえる返書」の和文全文を公開して下さい。(英文は、
<http://www.mgrschraven.nl/PDF/Abp.Japanese%20Message%20in%20English.pdf>
と存じますが、間違いございませんか?)
2. 池長大司教様の「返書」の^{もと}因となった、オランダよりの、『37年に中国で日本軍のため殉教したシュラーベン司教の記念式典に招待する手紙』の全文を公開して下さい。
3. 2012年10月13日もしくは14日、オランダにおいて深水正勝神父が代読した「池長潤大司教の書簡」全文を、読まれた言語並びに和文で、公開して下さい。
4. 上記の「返書」及び「書簡」は、日本カトリック司教協議会会長の立場で行われたと推察致しますが、司教協議会所属司教様方の一致した見解でしょうか。お答え下さい。

5. 「謝罪した」ということは、その事実を認めたということです。どのような根拠によってそれを認めたのか。資料の提示を求めます。

以上、5項目です。

なお私たちは本件報道に驚き、公開され入手可能な資料を集めてみました。私たちが一定の確認が出来次第、全体をレポート致します。

本質問状は Web 上での公開とさせていただきます。URL は下記の通りです。よろしくご確認ください。

<http://www.yokohama-yamate.jp/ksy/openletter2013.05.23.html>

頂いたご回答につきましては、上記サイト内に「一切の改変なくその儘」掲載致します。併せてご了承下さい。

お忙しいとは存じますが、ご返答の期限は、本状の到着後二週間以内とさせていただきます。万が一、何のリアクションもいただけない場合は、私どもに対しては「返答をする必要がない」と大司教様が判断されたか、もしくは「返答できる根拠をお持ちでない」ものと受け止めさせていただきます。

既にご承知とは思いますが、本件に関しては、著名な政治家を含め、相当の人たちが話題にしています。しかしながら私たちは私たちの意志で調べているので、他のグループもしくは個人との連携はありません。

なお本文は、下記の方々へも送らせて頂きます。

1. 日本のすべての司教様
2. 駐日ローマ教皇庁大使 ジョセフ・チェノットゥ大司教様
3. 深水正勝神父様
4. カトリック新聞・川越編集長様
5. 複数の聖職者と信徒
6. 読売新聞社及び数名の報道関係者

以上、大変僭越とは存じますが、わたしどもの趣旨は、日本のカトリック教会が世間から誤解を受けることがないようにとの願いから、ことの真相解明に取り組んでいる次第です。

匆々

本文公開予定日 2013年5月27日